創世記第9章

２０１２年　６月５日　文責Ｓ

前回までのあらすじ・・・

人間に愛想を尽かした神様は、大洪水により神から粛清を受けた。

洪水も終わり、自身が作った箱舟により生き残ったノアとその他家畜に対し、神はもうこんなことはしないと宣言した。

今回の流れ

神からの祝福の言葉→人間との契約を結ぶ→ノアたちが世界へ→ハムがノアの裸を見る

→カナンが呪われる

祝福と契約

Ｑ１、洪水後の状況はあるときの状況に非常に似ている。だが、微妙な相違も散見される。どういう部分が異なるのか？また、どうしてだろう？

あるとき→

Ｑ２、人が血を流し流されていけないのは、人が神に類似しているからであり、生命に対する尊厳などではない。これはちょっと横柄な気がしませんか？

Ｑ３、なんで血を含んだまま肉を食べてはだめなの？

Ｑ４、神が人間を滅ぼすことはもうないのだろうか？

Ｑ５、虹ってなんだろう？どうして虹が契約の証しなの？

ノアとその息子たち

Ｑ６、ノアはどうして農夫になったのか？(ｃｆ創世記３、１７～１９)

Ｑ７ノアが酔っ払い、それを見たハムとカナンが罰せられたのはどうしてだろう？

Ｑ８、じゃあ、罰せられるにしてもカナンが含まれているのはなぜ？

Ｑ９、前回までとこの章とで、繰り返されていることがある。それはなにか？

またそれはなにを伝えたいのか？